

平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月3日

上場会社名 株式会社 ウッドワン

上場取引所 東

コード番号 7898 URL <http://www.woodone.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中本 祐昌

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 藤田 守

TEL 0829-32-3333

四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	15,437	4.8	53	90.6	72		43	
30年3月期第1四半期	16,208	2.7	564	242.9	547		345	

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 838百万円 (%) 30年3月期第1四半期 1,587百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	4.66	
30年3月期第1四半期	37.07	

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しています。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	85,409	39,842	45.4
30年3月期	86,372	40,850	46.0

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 38,754百万円 30年3月期 39,700百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		3.75		18.75	
31年3月期					
31年3月期(予想)		18.75		18.75	37.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っています。平成30年3月期の1株当たり期末配当金については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「-」として記載しています。株式併合後の基準で換算した平成30年3月期の1株当たり年間配当金は37円50銭となります。

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	66,300	2.1	1,900	3.6	1,200	20.9	600	187.5	64.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	9,841,969 株	30年3月期	9,841,969 株
期末自己株式数	31年3月期1Q	509,918 株	30年3月期	509,918 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	9,332,051 株	30年3月期1Q	9,328,932 株

(注)当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき、1株の割合で株式併合を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しています。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の積極的な経済政策を背景に企業業績や雇用・所得環境の改善が見られ緩やかな回復基調が続いているものの一服感が見られ、米国の貿易摩擦が激化する懸念など、海外各国の諸政策が日本経済に及ぼす影響等もあり、不透明な状況が続きました。

住宅業界におきましては、マイナス金利政策による住宅ローンの金利低下の効果はあるものの、平成29年の夏ごろより連続して前年同期に比べ減少傾向にあった新設住宅着工戸数は、第1四半期も若干の減少傾向となり、職人不足問題も深刻さを増しています。

国内事業においては、平成26年度からの「第三の創業」を目標に掲げ、「フロー対応からストック対応への変革・実行！」をテーマとして、①今後需要が高まると予想される非住宅やリフォーム市場での販売の更なる拡大 ②無垢材を使った付加価値の高い商品の提供 ③職人不足を補うために省施工商品を普及させ、人工数削減とコストダウンを提案 ④働き方改革の更なる推進のためのITインフラを強化し、労働生産性の更なる向上を進めています。このような施策によって少子高齢化等に伴う新設住宅着工戸数減少の影響に左右されにくい強固な経営体質への転換を、引続き進めていきます。

また、昨年度に引き続き「木のぬくもりを活かした空間」をテーマとして、当社商品を使った「空間デザイン施工例コンテスト」を実施しています。建築家の伊東豊雄氏を審査委員長として作品を募集し、ブランドづくりにも力を入れています。

海外事業においては、ニュージーランドの連結子会社であるJuken New Zealand Ltd.が、1990年に山林の伐採権を取得し、当社グループが培ってきたノウハウで植林を開始してから約30年が経過します。これまで計画的に管理し育成してきた競争力のある良質なラジアータパインの原木が伐採期を迎えます。この良質な「無垢材」を活用し、付加価値の高い商品を効率的に生産することを目的として、事業を再編し、収益体制を再構築する方針としています。また、インドネシアの連結子会社であるPT. Woodone Integra Indonesiaは、合弁企業であるIntegraグループが持つノウハウを活かしつつ、当社主導の経営・製造ノウハウの活用や新規設備投資などにより事業拡大を図っています。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は、15,437百万円（前年同期比4.8%減）、営業利益は53百万円（前年同期比90.6%減）、経常損失は72百万円（前年同期は経常利益547百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は43百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益345百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

①住宅建材設備事業

住宅建材では、従来品に加え、意匠性が高く個性豊かな住空間の提案を可能とする無垢の木の壁材「デザインウォール」、広葉樹のタウサエット無垢集成基材を用いた新シリーズ「デザインウォール グランステージ」、無垢のラジアータパイン材を横棧のルーバー状に使用した「無垢の木のパーテーション」、箱型収納・棚板・金物を自由に組み合わせてオリジナル収納がつかれる「無垢の木の収納」等の無垢商品の拡販に努めました。当社独自のFSCの森林認証材であるLVLの構造材から木質内装材を使用した高性能+デザイン+住まい方、愛着を育む本物の木の家を実現した「ワンズキューボ」の提案を進め好評を得ています。ワンズキューボの家づくりは、大空間を「床・天井勝ち」スケルトン施工を行い、内部を「後間仕切りシステム」でインフィル施工を実現しました。独自の施工プロセスで工期短縮のスピード施工を実現し、将来においてもライフステージの変化に合わせて容易な間取り変更を可能にしました。従来の施工期間を大きく短縮できる「フルプレカット階段」、「丸棒手すりジャストカット」、「押入れECOサイズ」、「小壁パネル」、「天井野縁システム」等の当社独自の省施工商品の拡販に努めました。

住宅設備機器では、4つの樹種から無垢扉を選べる無垢の木のキッチン「スイージー」や黒の鉄と無垢の木の棚板を組み合わせたシンプルでスタイリッシュな新発想のキッチン「フレームキッチン」の販促に努めました。

FSCの森林認証材であるLVLの構造材と2スリット型の接合金物を組み合わせたJWOOD工法を使用し、非住宅の中規模木造建築の普及に力を入れ、福祉施設や保育園などの設計を含め販促に努めました。

しかし、新設住宅着工戸数の上半期の低迷もあり、当社売上高は前年同期に比べ減少し厳しい業績となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における住宅建材設備事業は、売上高が15,144百万円（前年同期比4.9%減）、営業損失が8百万円（前年同期は営業利益506百万円）となりました。

②発電事業

発電事業では、本社敷地内に木質バイオマス発電設備を導入し、電気事業者に売電を行い順調に稼働しています。木質バイオマス発電は、森林から直接産出する「間伐材等由来の木質バイオマス」、当社グループ内も含め製材所や木材加工所から生じる端材などの「一般木質バイオマス」、建築解体現場から排出される「建設資材廃棄物」を燃料とし、燃料調達は順調に推移しています。

この結果、当第1四半期連結累計期間における発電事業は、売上高が292百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益が62百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期における連結財政状態は、前連結会計年度に比べ資産が963百万円減少、負債が45百万円増加、純資産が1,008百万円減少しました。主な内訳として、資産の減少は、受取手形及び売掛金が664百万円増加、たな卸資産が238百万円増加したものの現金及び預金が1,012百万円減少、為替の影響もあり有形固定資産が729百万円減少、投資その他の資産が125百万円減少したことによるものです。負債の増加は、主に借入金の有利子負債が271百万円減少、繰延税金負債が258百万円減少したものの支払手形及び買掛金が112百万円増加、引当金(流動)が274百万円増加したことによるものです。純資産の減少は、主に利益剰余金が218百万円減少、為替の影響もあり、為替換算調整勘定が642百万円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、平成30年5月11日に発表した業績予想を修正しておりません。なお、業績予想を見直す必要が生じた場合には、速やかに開示する予定です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,537	4,524
受取手形及び売掛金	8,144	8,808
商品及び製品	5,365	5,416
仕掛品	2,034	2,048
原材料及び貯蔵品	5,032	5,206
その他	799	857
貸倒引当金	△22	△21
流動資産合計	26,891	26,840
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,878	7,844
機械装置及び運搬具(純額)	6,065	5,813
土地	13,590	13,487
立木	16,398	16,000
その他(純額)	1,940	1,997
有形固定資産合計	45,873	45,143
無形固定資産	893	836
投資その他の資産	12,713	12,588
固定資産合計	59,480	58,568
資産合計	86,372	85,409
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,273	4,386
電子記録債務	1,454	1,426
短期借入金	6,818	6,660
1年内償還予定の社債	300	300
未払法人税等	169	210
引当金	326	601
その他	2,558	2,624
流動負債合計	15,901	16,210
固定負債		
社債	3,000	3,000
長期借入金	23,280	23,166
繰延税金負債	1,837	1,578
引当金	338	345
退職給付に係る負債	866	880
その他	296	386
固定負債合計	29,619	29,356
負債合計	45,521	45,566

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,324	7,324
資本剰余金	7,519	7,519
利益剰余金	21,707	21,489
自己株式	△2,120	△2,120
株主資本合計	34,431	34,213
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,186	1,093
為替換算調整勘定	4,146	3,504
退職給付に係る調整累計額	△64	△56
その他の包括利益累計額合計	5,268	4,541
新株予約権	161	166
非支配株主持分	988	921
純資産合計	40,850	39,842
負債純資産合計	86,372	85,409

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	16,208	15,437
売上原価	11,363	11,003
売上総利益	4,845	4,433
販売費及び一般管理費	4,280	4,380
営業利益	564	53
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	38	41
受取賃貸料	26	35
為替差益	65	—
その他	90	26
営業外収益合計	223	106
営業外費用		
支払利息	101	92
売上割引	115	108
為替差損	—	15
持分法による投資損失	12	—
その他	10	15
営業外費用合計	240	231
経常利益又は経常損失(△)	547	△72
特別利益		
固定資産売却益	0	6
その他	0	—
特別利益合計	0	6
特別損失		
固定資産売却損	10	1
固定資産除却損	1	0
災害による損失	—	0
その他	0	1
特別損失合計	11	4
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	536	△70
法人税、住民税及び事業税	238	97
法人税等調整額	△44	△112
法人税等合計	194	△14
四半期純利益又は四半期純損失(△)	342	△55
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3	△12
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	345	△43

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	342	△55
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	206	△92
繰延ヘッジ損益	△2	—
為替換算調整勘定	1,038	△697
退職給付に係る調整額	2	7
その他の包括利益合計	1,245	△782
四半期包括利益	1,587	△838
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,526	△770
非支配株主に係る四半期包括利益	60	△67

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示し、また、同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債は双方を相殺して表示しています。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、税効果会計基準一部改正等を適用する前と比べて「流動資産」の「繰延税金資産」が211百万円減少、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が7百万円増加、「固定負債」の「繰延税金負債」が203百万円減少しました。また、適用前と比べて資産合計及び負債合計は203百万円減少しています。